

針葉樹皮追加敷設によるブルーベリーの樹勢回復

樹勢の弱ったブルーベリーの土耕栽培樹に、針葉樹皮を20cmの厚さで追加敷設することで収量増加と樹冠面積の拡大を図ることができる。

成果の内容

樹勢の弱ったブルーベリーの土耕栽培樹に、針葉樹皮を20cmの厚さで追加敷設することで、根圏が上層に拡大し（図1）、収量が増加する（図2）。樹皮敷設により、樹冠容積も拡大（図3）し、干ばつにも強くなる（写真1）。

成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 針葉樹皮は、スギおよびヒノキの製材時に剥皮され、堆積された樹皮（未粉碎のもの）を使用する。粉碎されたものは保水性が著しく低下し、乾燥しやすくなるため、本栽培には適さない。未加工の樹皮は製材所等で入手可能。
- 2 針葉樹皮を敷設する際は、主軸枝からの発根を促すため、樹皮を株元までしっかり密に敷設する。
- 3 樹勢が弱っている場合は、樹勢が回復するまで着果制限を行う。

具体的なデータ

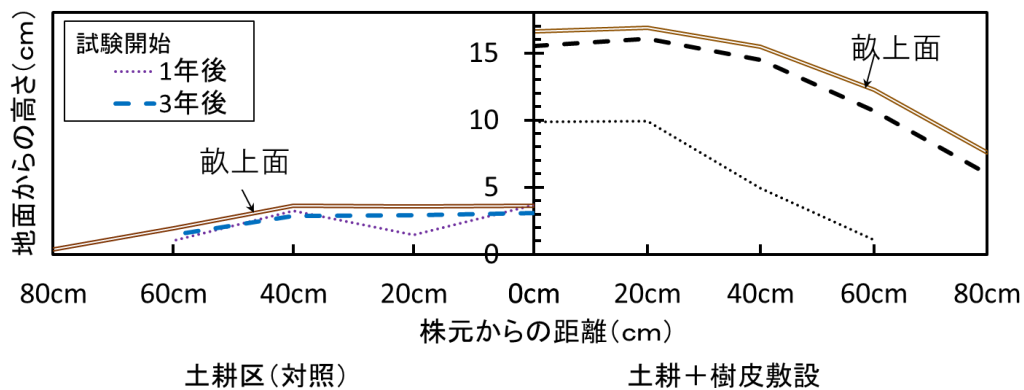


図1 試験開始後の畝内の上根の位置の変化

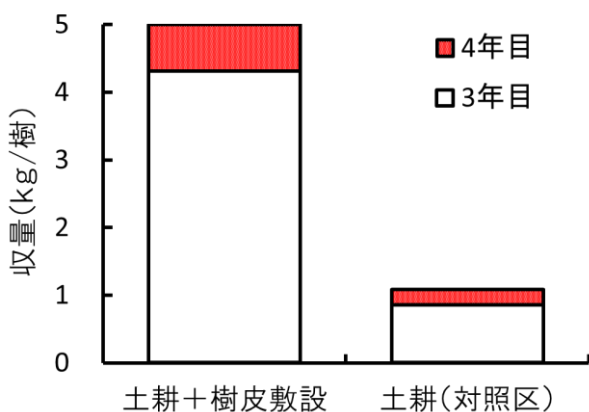


図2 樹皮敷設試験開始後の果実収量

注：樹勢が弱かったため、試験1～2年目は全摘果を実施。

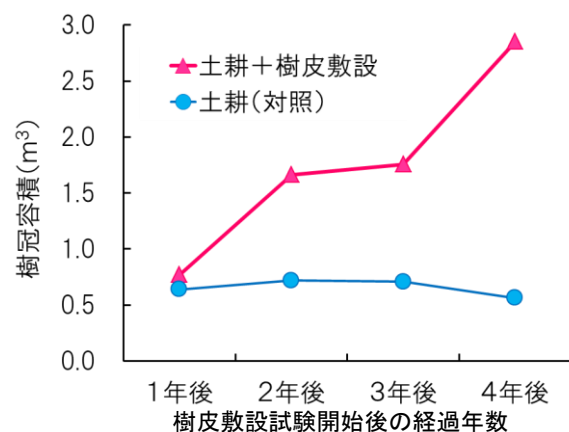


図3 樹冠容積の推移



土耕栽培樹



土耕栽培＋樹皮追加敷設樹

写真1 干ばつ時の果実の比較（平成27年5月27日撮影）

土耕栽培では水分不足による皺果が発生したが、樹皮敷設区では発生しなかった

研究年度	平成26年～28年
研究課題名	ブルーベリーにおける樹皮敷設による樹勢向上およびネット収穫技術の開発
担 当	農業技術部園芸作物研究室 大崎美幸・安永 真・中谷幸夫（現 山口農林事務所）